

日本放送協会 理事会議事録

(平成26年12月 2日開催分)

平成26年12月19日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成26年12月 2日(火) 午前9時00分～9時35分

<出席者>

梶井会長、堂元副会長、塚田専務理事、吉国専務理事、石田専務理事、
板野専務理事、木田理事、福井理事、下川理事、森永理事、井上理事、
浜田技師長

上田監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

梶井会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

1 審議事項

- (1) 第1226回経営委員会付議事項について
- (2) 平成26年度海外総支局業務体制の強化について
- (3) 総務省「電波政策ビジョン懇談会 最終報告書(案)」に対する
協会意見の提出について
- (4) 平成27年度国内放送番組編集の基本計画について
- (5) 平成27年度国際放送番組編集の基本計画について

2 報告事項

- (1) 考査報告
- (2) インターネット実施基準要綱に関する意見募集の結果について
- (3) 放送番組審議会議事録（資料）

議事経過

1 審議事項

- (1) 第1226回経営委員会付議事項について
(経営企画局)

12月9日に開催される第1226回経営委員会に付議する事項について、審議をお願いします。

付議事項は、審議事項として「平成27年度収支予算編成要綱」、「平成27年度国内放送番組編集の基本計画について」、および「平成27年度国際放送番組編集の基本計画について」です。また、その他の事項として「平成26年秋季交渉の結果について」です。

(会 長) 原案どおり決定します。

- (2) 平成26年度海外総支局業務体制の強化について
(森永理事)

海外総支局の業務体制について、中国をめぐる取材環境の変化を踏まえ、中国・東アジア地域の取材・制作体制を強化したいと思いますので、審議をお願いします。

従来設置していた香港事務所に取材要員1名を常駐させ香港支局とし、中国・東アジア地域の取材・制作体制を強化したいと思います。

香港への取材要員の常駐によって、中国報道の取材力向上だけでなく、東シナ海や南シナ海をにらんだ取材の機動力アップや地上波・BSの国際ニュース番組のさらなる充実強化につなげることができます。さらに、NHKの国際放送強化のために、支局内のスタジオを活用し、マーケット情報を含めた香港発の情報を、常時、世界に発信することが可能になります。

以上の内容が決定されれば、平成26年12月24日付で実施します。

(会長) 原案どおり決定します。

(3) 総務省「電波政策ビジョン懇談会 最終報告書(案)」に対する
協会意見の提出について

(技術局)

総務省は、電波利用ニーズが高まる中、新しい電波利用の姿などについて具体的な議論を行うことを目的として、「電波政策ビジョン懇談会」を開催しています。これまでにNHKは、平成26年2月と6月に検討課題やその考え方に対して意見を提出し、4月と9月にヒアリングの対応を行いました。今回、総務省は、「電波政策ビジョン懇談会 最終報告書(案)」についての意見募集を12月5日まで行っています。これに対し、NHKとして意見を提出したいので、審議をお願いします。

提出意見は、次のとおりです。

まず、「新しい電波利用の姿について」の意見です。

1点目は、「超高精細度テレビジョン放送等の実現」についてです。オールジャパンで取り組んでいる8Kスーパーハイビジョンの放送に関連して、番組制作等で必要な素材伝送を可能とする制度整備への取り組みや、周波数有効利用を図る圧縮伝送技術の開発の必要性が明記されており、適切と考えます。さらに、地上波での放送実現も視野に入れた周波数確保や技術開発の支援の取り組みも必要と考えます。

2点目は、「安心安全の確保のためのネットワークの多様化・多層化」についてです。国民の安心安全、生命財産を守る放送メディアの重要性和、放送業務に必要な周波数を引き続き確保する必要性について明記されており、適切と考えます。

3点目は、「無線LANへのオフロードの増加」についてです。無線LANへのオフロード周波数として、TVホワイトスペースの利用や5GHz帯の既存無線システムとの共用の可能性を検討されるにあたっては、視聴者への影響が無いように地上デジタルテレビジョン放送ネットワークの保護をしっかりと保障し、既存無線システムについても適切に保護することが必要と考えます。

続いて、「新しい電波利用の実現に向けた新たな目標設定と実現方策

について」の意見です。

1点目は、「ホワイトスペースの有効利用」についてです。TVホワイトスペースのデータベースシステムのような仕組みの導入の可能性について検証される場合は、放送事業者も含めた慎重な議論を行い、視聴者への影響が無いように地上デジタルテレビジョン放送ネットワークの保護をしっかりと保障することが必要と考えます。

2点目は、「研究開発の戦略的推進」についてです。8Kスーパーハイビジョン等の新たな放送サービスの実現に向けた周波数有効利用のための研究開発への支援も必要と考えます。

以上の内容が決定されれば、NHKの意見を総務省に提出します。

(会長) 原案どおり決定します。

(4) 平成27年度国内放送番組編集の基本計画について

(編成局)

平成27年度国内放送番組編集の基本計画について、審議をお願いします。

27年度は、メディア環境や国際情勢の変化に対応して公共放送の挑戦と改革を進める、次期経営計画の初年度にあたります。

いま日本は、不透明な経済の先行きと高齢化社会への不安、戦火が止まない国際情勢、相次いで列島を襲う自然災害など、先の読めない事態に直面しています。27年度国内放送番組の編集にあたっては、公平・公正、正確・迅速な事実に基づく報道で人々の命と暮らしを守るという公共放送の「原点」を堅持し、使命を果たしていきます。そして、日本と世界の課題を読み解き、新しい手法も駆使した深い取材に基づくニュース・報道番組、幅広い世代の期待に応える創造的な文化・教養・娯楽番組など、魅力的で質の高い信頼される放送を実現します。

27年は東日本大震災から5年目に入ります。被災地の復興を支援し、未来を展望する番組に継続して取り組みます。同時に、全国の放送局は地域に密着して活性化を支え、防災や減災につながる情報発信と体制作りに努めます。さらに、改正放送法が施行され、またBSでのスーパーハイビジョン試験放送が28年から始まります。インターネットを活用した新たなサービスや最先端の高精細映像による番組制作に積極的に取

り組みます。放送開始90年、戦後70年の節目にあたり、これまでの歩みを踏まえながら、未来を見据えた番組とサービスを開拓し、引き続き人にやさしい放送・サービスの拡充にも努め、公共放送は新たな時代へ歩み出します。

編集の重点事項は、「1.『命と暮らしを守る』報道に全力を挙げ、東日本大震災からの復興を積極的に支援」、「2.国内外の課題に対し、判断のよりどころとなるニュース・番組」、「3.幅広い視聴者の関心に応え、豊かで多彩な番組を編成」、「4.地域の『安全・安心の拠点』となり、地域活性化へ貢献」、「5.質の高いコンテンツを世界へ発信」、「6.新たな可能性を開く放送・サービスを創造」、「7.歴史を踏まえ、未来へ。放送90年、戦後70年の取り組み」、「8.2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み」、「9.“人にやさしい”放送・サービスの拡充」、以上9項目です。

これらの重点項目の実施にあたっては、「国内放送番組編集の基本計画」が放送サービスとして実現されているか、録画視聴やインターネット利用も含めたNHKへのトータルな接触を把握する多角的な評価指標の開発に努め、それに基づいて評価・管理を行います。また、限られた経営資源を効果的・効率的に活用し、ニュースや番組を充実させます。さらに、放送倫理やコンプライアンス意識の徹底、人材の育成に力を入れ、確かな情報と質の高い番組の提供に努めます。

本件が了承されれば、12月9日開催の第1226回経営委員会に審議事項として提出するとともに、12月15日開催の第610回中央放送番組審議会に諮問します。

(会長) 原案どおり了承し、次回の経営委員会に諮ります。

(5) 平成27年度国際放送番組編集の基本計画について
(国際放送局)

平成27年度国際放送番組編集の基本計画について、審議をお願いします。

2020年夏の東京オリンピック・パラリンピック開催を5年後に控え、海外発信のさらなる強化が求められています。国際放送「NHKワールド」は、NHKの総力を結集し、テレビ・ラジオ・インターネット

を通じて、政治・経済・産業・文化・教育など幅広い分野について、迅速かつ客観的にニュースや番組を発信します。また、海外発信強化の取り組みを通じて、日本に対する理解を促進するとともに、世界で信頼される国際放送を目指します。

次期経営計画の初年度にあたる27年度、英語による外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」は、世界の視聴者に見てもらえる魅力的なチャンネルへと大きく変わります。日本とアジアを中心にした取材・制作体制を強化し、正確で客観的なニュースをさらに深く伝えるとともに、世界の識者たちによる討論を通じて、日本と世界が直面する課題の解決に向けて提言します。また、多彩な番組を、北米・アジア・欧州それぞれの視聴傾向にあわせて効果的に編成し、広く日本の魅力や実情を紹介します。

在外邦人向け日本語チャンネル「NHKワールド・プレミアム」は、海外で暮らす日本人や旅行者に、最新のニュースや情報番組を届けます。地震・津波などの自然災害や、事件・事故などの緊急事態発生時には、迅速かつ的確な情報を提供します。

多言語によるラジオ国際放送「NHKワールド・ラジオ日本」は、放送開始80年を迎えます。在外邦人のライフラインとして安心・安全を支える情報を届けるとともに、外国人向けに、日本の最新情報や話題を各地域のニーズにあわせて提供し、さらなる内容の充実を図ります。

インターネットサービス「NHKワールド・オンライン」では、ホームページを全面的に刷新して利便性の向上を図るとともに、番組の「見逃しサービス」を中心とするビデオオンデマンド配信（VOD）を開始します。テレビ・ラジオと並ぶ情報の発信手段として、見たい時にいつでもアクセスできるインターネットの強みを存分に活用します。

本件が了承されれば、12月9日開催の第1226回経営委員会に審議事項として提出するとともに、12月12日開催の第609回国際放送番組審議会に諮問します。

(会 長) 原案どおり了承し、次回の経営委員会に諮ります。

2 報告事項

(1) 考査報告

(考査室)

平成26年10月20日から11月23日までの間に放送した、ニュースと番組について考査した内容を報告します。

この期間に、国内放送番組では、ニュース24項目、番組55本の考査を実施しました。

ニュースの主な項目としては、衆議院が解散され、事実上の選挙戦が開始したこと、長野県北部で震度6弱の地震が発生したこと、米国議会の中間選挙で野党の共和党が上下両院ともに多数派になることが決まり、オバマ大統領の政権運営が一段と厳しくなる見通しになったこと、西アフリカ滞在後に羽田空港に到着した男性がエボラ出血熱の感染を疑われたことで、国内で患者が出た場合に備えた態勢の強化が急務になっていることなどがありました。

番組では、ビッグデータが医療のあり方を根本から変えようとしている日米の現場取材し、その可能性と課題に迫った、NHKスペシャル「医療ビッグデータ 患者を救う大革命」(11月2日放送)、漫画家・浦沢直樹をプレゼンターに、2人の漫画家の作画現場にカメラが密着し、漫画誕生までの創作過程を明らかにした「浦沢直樹の漫勉」(Eテレ 11月9日放送)、次々と危機に遭遇する男性のドラマと、彼が取る行動を三択問題にして視聴者がリモコンで選択するクイズを交えたバラエティ番組「きっと役立つ? 危機回避術 温水★危機一髪」(総合テレビ 11月4日放送)などの番組を考査しました。

また、国際放送では、外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」の「NEWSLINE」6項目と番組1本の考査を実施しました。中国による南シナ海進出の実態や背景を説明し、ASEAN首脳会議での合意内容などを伝えた「NEWSLINE」(日本時間11月12日放送分)や、フィリピンの民間放送局との共同制作で、フィリピンのリポーターが京都の魅力を伝えた旅番組「Journeys in Japan Into the Heart of Kyoto」(日本時間11月4日放送)です。

考査の結果、これらの一連のニュース・番組は、放送法、国内番組基準、国際番組基準等に照らし、妥当であったと判断します。

(2) インターネット実施基準要綱に関する意見募集の結果について

(経営企画局)

インターネット実施基準の要綱に関して、10月29日から11月11日まで意見募集を行いましたので、報告します。

提出された意見の総数は33件で、提出方法は、NHKホームページ上の専用メールフォームからが29件、郵送が4件でした。提出者の属性は、法人が8件、個人が25件でした。

提出された意見とそれに対するNHKの考え方については、11月25日に総務大臣あてに認可申請した「放送法第20条第2項第2号および第3号の業務の実施基準(案)」、および参考資料として提出した「受信料財源業務の費用の上限についての考え方」とともに、本日、NHKホームページの「NHKについて」のなかに掲載します。

(3) 放送番組審議会議事録(資料)

編成局と国際放送局から、中央放送番組審議会、国際放送番組審議会、全国の地方放送番組審議会(関東甲信越、近畿、中部、中国、九州沖縄、東北、北海道、四国)の平成26年10月開催分の議事録についての報告(注)。

注：放送番組審議会の内容は、NHKホームページの「経営情報」のなかに掲載しています。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成26年12月16日

会長 靱井勝人